自ら学ぶ生徒を育てるための新聞活用はどうあったらよいか

指定校２年次　　諏訪郡富士見町立富士見中学校　矢島　和明

Ⅰ　本校のＮＩＥの現状

本校は，今年度４月より旧富士見高原中学校と旧南中学校が統合し，富士見中学校として新たなスタートを切った。昨年度，富士見高原中が指定を受け，引き続き富士見中として２年次の指定研究をさせていただいた。全校生徒４２７名，学年４～５学級の学校である。ほぼ全家庭で新聞を購読しているが，生徒はテレビ欄やスポーツ欄，事件・事故の記事を読むにとどまっているのが現状である。昨年度から，いただいた新聞の一面を毎朝昇降口に掲示したり，図書館に置いたりしているので，新聞への関心は徐々に高まっていると感じている。

校内においては，社会科や理科，道徳あるいは学年・学級通信において新聞記事を活用しているが，系統立てての活用には至っていない。また「ＮＩＥ」についてはほとんど知らないか，知っていても実践にまで至っていない職員が大半である。

そこで，昨年度に引き続いて，自ら学ぶ生徒を育てるために，どのような新聞活用の方法があるのかを研究しようと試みた。各教科でつける力を明確にし，その力をつける手だてとして新聞活用を取り入れられるのではないかという立場で「総合的な学習の時間」において実践を試みた。

Ⅱ　ＮＩＥ実践のねらい

以下の「研究の仮説」（**表１**）に示すように，学校全体の課題・手だて・目指す姿と，それに照らして授業学級・教科等における課題・手だて・目指す姿を考えた。

表１　研究の仮説

《このような生徒に》

全　体	総合的な学習の時間
与えられた課題に対しては誠実に取り組むが，解決すべき問題を自分の手で見つけ出し，問題解決の方向を探り，追究していく経験が少ない生徒	・社会科「私たちの南中」で旧南中跡地の活用について調査した結果，校舎として残してほしいという願いを叶えてもらうためには，財政面など富士見町の課題についても考えていかなくてはならないと気づき始めた生徒 ・社会科が終わった時点で少し関心が薄れ始めた生徒

《このような新聞活用による単元・題材，授業を展開していけば》

全　体	総合的な学習の時間
「新聞学習の要素」から追究場面に応じた新聞活用を考えて単元・題材・授業を展開する	単元の最初で，新聞記事を資料として使い，今までの社会科の調査を想起させながら，各自の課題を決めだすように促す

《このような目指す姿になるだろう》

全　体	総合的な学習の時間
自ら進んで学ぶようになるだろう	各自の課題解決に向かって意欲的に学習に取り組むだろう

Ⅲ　研究の概要

１　実践した教科等

総合的な学習の時間　３年４部「私たちの富士見町」

２　新聞の提供状況

○　６～３月の 10 カ月間，購読計画に基づき，７紙を購読した。

○　図書館に新聞を置くテーブルを用意し，生徒が自由に見られるようにした。

○　生徒昇降口に「本日の新聞一面」コーナーを設けた（**写真１**）。係職員が毎朝，購読している新聞の一面をカラーコピーして掲示するとともに，「今日の注目記事」（**写真２**）として，注目記事の説明や感想を掲示した。

写真１　「本日の新聞一面」コーナー

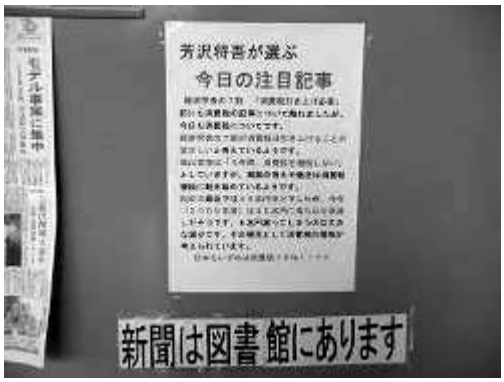

写真２　「本日の注目記事」

３　新聞を取り入れた実践をする上で特に工夫をしたこと

昨年度に引き続き，本校研究テーマと冊子「ＮＩＥ実践の手引き」記載の「新聞学習の要素」との関連を考え，それが実践授業を行う「総合的な学習の時間」の単元あるいは１時間の授業の中でどのように位置付くのかを考えた（**図１**）。

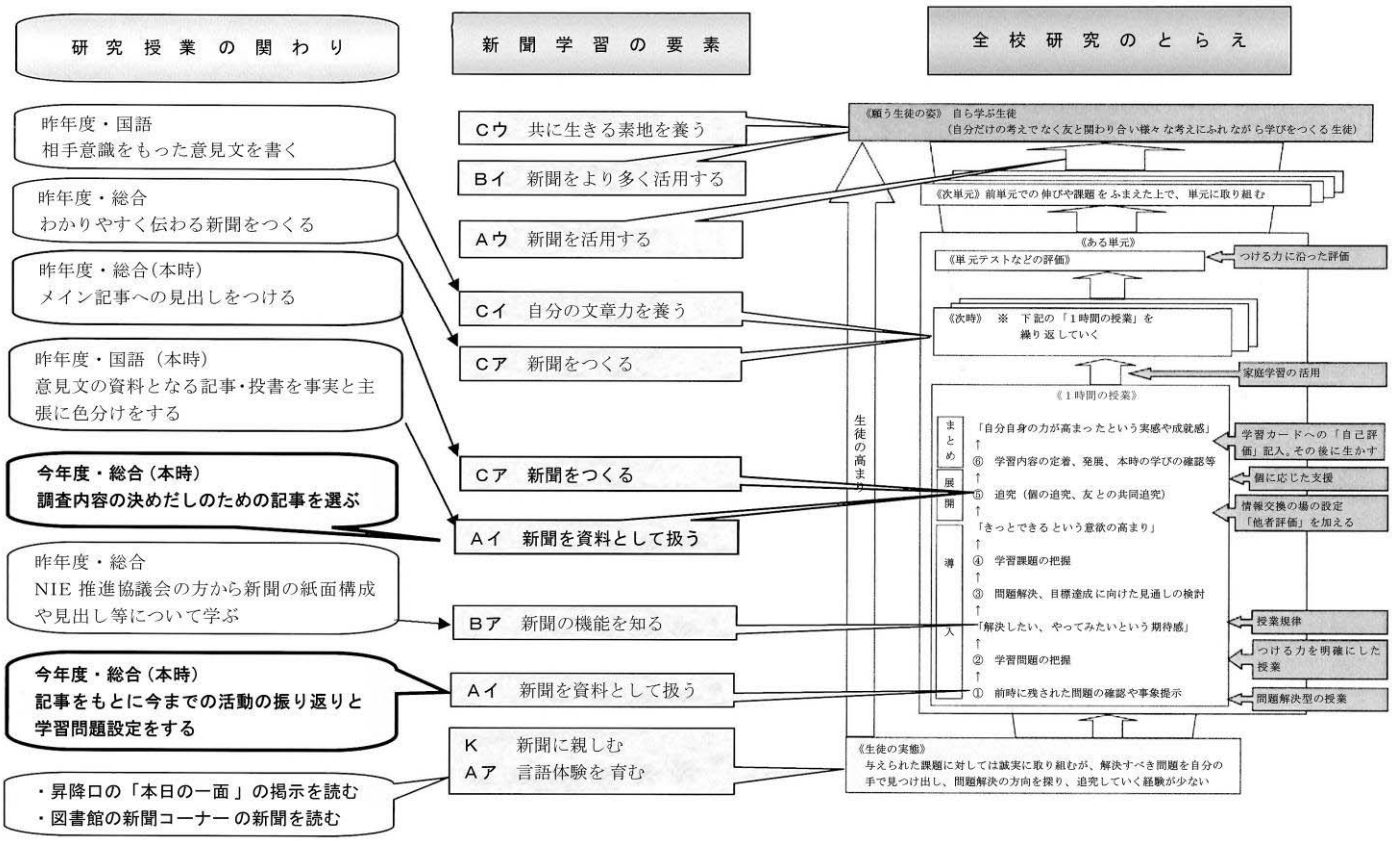

図１　全校研究と新聞活用の関連

※昨年度の旧富士見高原中での実践も図の中に入れた

４　ＮＩＥ（エヌ・アイ・イー）のねらいと新聞学習の要素

ＮＩＥは「新聞を生きた教材として教育に活用するために，教育サイドと新聞サイドが共同して行う教育活動」のことである。ＮＩＥを推進していくために，信濃毎日新聞社読者センターより「ＮＩＥ実践の手引き」が配布されている。その中に「新聞学習の要素」として**表２**のようなことが挙げられている。

表２　新聞学習の要素　　（「NIE 実践の手引き」〔信濃毎日新聞社　読者センター〕より）

Ｋ　新聞に親しむ		新聞の写真や漫画や文字の面白さに目をつけ，切り抜いてためたりテーマごとにまとめたりする面白さを味わう（下記要素ＡＢＣの基底となる活動）。
Ａ　新聞で学ぶ	ア	新聞を読むことで，言語体験を育み，考える力や情報選択能力等を学ぶ。
	イ	新聞を資料として扱う。知識や情報を得て授業を補ったり，生活体験を豊かにしたりする。
	ウ	一般の新聞やニュース，意見，情報，作品等や自分で作った新聞を活用して，自分たちの生活全般や教科をはじめとした学校教育活動全般の向上に役立てる。
Ｂ　新聞を学ぶ	ア	新聞発行までの仕組みや新聞の機能を知って，新聞がもつ意味や価値を理解する。
	イ	新聞をより多く読んだり活用したりしながら，新聞を生活文化として守り育てていこうとする態度を養う。
Ｃ　新聞をつくる	ア	新聞をつくる活動を通して，新聞の中にある文章，見出し，写真，図，漫画，広告等，紙面全体に散りばめられている英知を学ぶ。
	イ	自分の文章力・表現力・読解力・まとめる力を養う。
	ウ	社会状況を的確に見据えて共に生きる人間としてのより良い対応ができるための素地を養う。

本校ＮＩＥの研究では昨年度の研究に引き続き，この新聞学習の要素に照らして，どの学習場面でどのように新聞を活用するのかを研究することとした。

５　新聞記事の収集に関する「信毎データベース」等の活用

ＮＩＥ研究推進指定校として，年間を通して新聞各紙をいただいており，資料としての新聞記事収集に大変役立っているが，一般校ではなかなか難しい。気になる記事をストック，スクラップしていはいるが根気のいることであるし，見逃しもあるし，なかなか複数の新聞に目を通すこと（購入すること）は無理な面がある。そこで，新聞社が独自に行っているインターネットでのサービスを利用する方法がある。

今回の授業では「信濃毎日新聞データベース」と「長野日報記事検索」を利用して生徒に配布する記事を収集していく。信毎データベースでは 1995 年以降の記事や紙面が手に入る。今回はキーワード検索によって富士見町に関する記事や紙面を収集した。利用料金があり，利用承諾書の取り交わしなどの手続きもあるが，**図２**のように紙面が手に入ることが大変魅力である。長野日報の記事検索は無料で 2005 年以降の記事が検索できるが，紙面ではないため，今回は長野日報社にお願いして検索した記事についての紙面のコピーを送っていただいた。

（信毎データベース：http://member.shinmai.co.jp/db/）

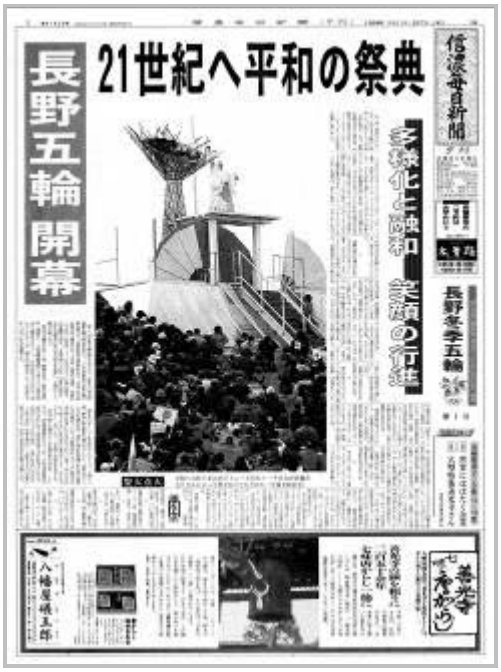

図２　信毎データベースからの紙面
（1998 年２月７日付夕刊）

Ⅳ　ＮＩＥ実践の内容

１　授業学級　　３年４部

２　題材名　　「私たちの富士見町」

３　題材設定の理由

３年４部の生徒は，社会科の時間で「南中学校の跡地利用」について考えてきた。自分たちが考えた活用案をもとに，根拠となる資料を見つけたり，役場に行って担当の方にお話を聞いたりと意欲的に学習してきた。こうした南中学校の跡地利用を考える学習の中で富士見町の福祉の問題，財政面等，町のよさや課題などの実情について気づきだしてきた。

本単元では，富士見町の実情についてより理解を深めていきたい。まず，南中学校の跡地利用を考えた際に気づいたことや興味をもったことについて再度見直すようにしていく。調査してきた中で，課題に挙がったことをもとに，さらに町が抱える課題はないか問う。その際，課題に着目しやすいよう，富士見町の総合計画や新聞記事を資料として扱っていく。その中で，富士見パノラマリゾートの記事から，どうして財政面が苦しくなったのかや休耕田の記事から高齢化は福祉の問題だけに関わることではないことに気づかせていく。このような活動を通して，今後の調査内容に見通しをもたせ，調査活動にうつっていきたい。そして，調査する中でわかってきた事実をもとに，自分にできることを考えさせていきたい。

このような学習活動を通して，富士見町の実情についてより理解を深めていくことができると考える。そして，確かな事実認識を通して，より富士見町についての見方・考え方をひろげ，富士見町の発展に寄与しようとする自治意識の基礎を育てたいと願い，本単元を設定した。

４　題材の目標

南中学校の活用案を考える中で，一人一人が気づいた富士見町の課題やその他の課題について，自分が調べていきたいテーマを決め，調査しまとめる活動を通して，問題解決の力を高めるとともに，富士見町の実情について理解を深め，富士見町の発展に寄与しようとする住民としての自治意識の基礎を高めていく。

５　題材の評価規準

【A　学習方法に関すること】

① 南中学校跡地利用についての調査の振り返りから，富士見町の課題にかかわる自分なりの問題意識をもち，課題の設定や計画立案をしている。

② 問題や場面に応じ，これまでの学習や情報，技能を使いこなして，積極的に解決を図っている。

③ クラスや全校での発表会などで，伝える方法を工夫し学習してきた内容について自分の考えや思いを調査した内容と合わせて伝えることができる。

【B　自分自身に関すること】

① 富士見町の実情について，広い視野で見つめ，考えていくことができる。

② 自分自身の学習過程を振り返り，自分自身の変化や成長を見出すことができる。

【C　他者や社会に関すること】

① 調査活動を通して，様々な立場の人の気持ちになって考え，他者のよさや個性を尊重しようとする。

② 富士見町の課題についての調査を通して，自分にできることは何か考えるとともに，富士見町への愛着を高めることができる。

６　題材展開の大要

段階	学習活動	○学習内容　・予想される生徒の姿	教師の支援・評価	時間
課題把握	１富士見町の課題について考え，調査内容を決めよう。	○富士見町の課題をもとに，自分の調査内容を決める。 ・富士見町にはまだまだ多くの課題がありそうだ。	・南中の活用案を考えた学習を振り返らせながら，新聞記事を使って課題を焦点化させていく。	本時
	学習問題　富士見町はどんな課題を抱え，取り組んでいるのだろう。		A①	
	２調査グループを作り，担当を決めよう。	○同じテーマをもとにグループ分けを行う。 ○調査内容の確認と分担を決める。 ・役場に行って実際に話を聞いてみよう。 ・もっと新聞記事を集めよう。	・同じテーマの生徒同士でグループを作り，より調査内容について吟味させていく。 A①	2
展開	３調査計画をもとに調査しよう。	○役場や現地に行き，調査する。 ・農家の方に思いを聞いてみよう。 ・役場の人に今の状況を聞いてみよう。 ・インターネットを使って調べて見よう。	・1 日総合の時間を利用して，現地に調査に出かけることができるようにする。 A②C①	6
	４調査内容をまとめよう。	○模造紙を使って調べた内容をまとめる。 ・富士見町の状況をうまく伝えられるようにまとめよう。 ・自分たちにできることってどんなことだろう。	・調査した事実に基づき，自分はどのようにしていきたいかを考えさせ，合わせてまとめるように促す A②C①	3
	５クラスの中で発表し合おう。	○模造紙をもとに，クラスの中で発表会を行う。 ・もう少し，詳しいデータがあった方が根拠がはっきりとしていてわかりやすい。	・発表後の質問や意見をもとに，足りない部分は補足していくよう促す。 ・発表会での感想を互いに発表し合い，学習の成果を認め合うようにする。 A③B②	1
	６まとめたものを修正し，全校発表の準備をしよう。	○不足したところを再調査する。 ○パソコンを使って，全校発表に向けての準備を行う。 ○発表原稿を作り，担当を決める。 ・よりわかりやすく，根拠がはっきりとした発表にしていくぞ。	・足りない部分は，再度調査して合わせてまとめるよう促す。 A②	3
	７全校に学習成果を発表しよう。	○パソコンを使って学習の成果を発表する。 ・自分たちの考えを分かりやすく伝えることができた。	・学校職員や全校生徒から感想を聞き，評価していただくようにする。　A③	1
振り返り	８学習活動を振り返ろう。	○今までの学習を振り返り，自分たちにできることを考える。 ・自分たちの住む富士見町について，もっと考え，自分たちにできることを行っていきたい。	・それぞれのグループの学習成果をもとに自分たちがこれからできることについて考えさせていく。 B①②C②	1

7　本時に関わる教材化

（１）導入で使う記事　（平成 22 年 10 月 23 日付「信濃毎日新聞」）

南中学校の活用案を考えた学習では，いくつかの案が提案されたが，それぞれに課題があり，一つの活用方法だけでは活用していくことが困難だと気づきだした。そこで，それぞれの案のメリットを生かして課題を解決していく方法はないかと考えた。そこで，「井戸尻考古館」と「学校博物館」を組み合わせる案があがった。これは，課題として挙がってきた木造校舎の利用方法や維持費の問題を双方のメリットを組み合わせることで解決できそうということに見通しがもてたためである。

このような学習をしてきた生徒に，自分たちの学習を振り返った後に**図３**の記事を提示する。そこで，富士見町に提案された具体的な活用方法について読んでみる。その中には，「農産物の新たな産業化や生涯学習の拠点として，児童クラブやカフェも備えた複合施設」「特産物直売所のほかにフリースクールや農村文化の体験教室も組み合わせた複合施設」などがある。この記事を読む中で，自分たちと同じように，一つの施設として活用するのではなく，複数のものを組み合わせた案が多く挙がっていることに気づかせていく。そこで，なぜ複合施設にするのかと発問しそれぞれにメリットもあるが課題もあることから複合施設にしていく必要性があることに，既習事項をもとに気づかせていく。

このように**図３**の記事を扱うことで，自分たちが学習してきたことは，他の人も同じように考え，活用案を作っていると感じることができ，学習の達成感を味わうことができると考える。また，活用案を考えていくことには，多くの課題もあり，その課題が富士見町の抱えている問題でもあることに改めて気づくことができるきっかけとなるとも考えられる。そして，自分たちが調べてきた以外にも富士見町はどんな課題を抱え取り組んでいるのか考える上で，意欲付けにつながってくると考えた。

第三種郵便物認可

農産物加工や教育関連

富士見町の旧南中後利用提案

検討委で公表

富士見町は31日に締め切った旧南中学校の後利用公募に寄せられた4件の提案の概要を、21日夜に町役場で開いた「南中学校跡地利用検討委員会」の第3回会合で明らかにした。町特産物の農産物の加工・販売拠点や小中一貫校として利用する案などが挙がった。

旧南中は諏訪地方唯一の現役の木造校舎として親しまれ、統合により3月に閉校した。町は事業主体になれる民間団体を対象に、実現可能な後利用案を募っていた。

提案は町内から3件、町外から2件あり、うち1件は県外からだった。地場の農産物活用に関連する案が3件で、マルハーブや食用ホオズキなどを加工し、地域ブランド品として販売する拠点。農産物の新たな産業化や生涯学習の拠点として、児童クラブやカフェも備えた複合施設。▽特産品直売所のほかにフリースクールや農村文化の体験教室も組み合わせた複合施設にする－といった内容だった。

ほかの2件は人材の育成に関係し、▽コンピューターゲームなどを使って3Dキャラクターアニメーターを育てるための小中一貫校として校舎全体を活用する－との内容。

委員からは「学校をつくっても子どもが集まるだろうか」「二つ以上の案を組み合わせることも考えるのではないか」といった意見がだした。資金計画や運営の構想を詳しく知った上で検討を進めるため、12月上旬に提案者による説明会を開くことも決めた。

検討委は年内に後利用の大まかな方針を出すことを目指しているという。

「校舎存続」1629人分の署名

卒業生有志、検討委に提出

小池委員長（左）に集めた署名を手渡す南中の卒業生有志

富士見町の旧南中学校の校舎存続を願い、この一カ月余り署名活動をしてきた卒業生有志が21日夜、町役場を訪れ、集めた1629人分の署名を南中学校跡地利用検討委員会の小池一夫委員長に提出した。

中心となって活動してきた2000年度卒業の3人が、検討委の第3回会合に先立って訪れた。会長の五味貴朗さん25＝小六＝が「署名を集めるので、地域の人や卒業生の校舎に対する強い思いを感じた。検討の参考にしてもらいたい」と求めた。小池委員長は「町の財政を考えながら後利用を協議していく必要がある。皆さんの熱い思いを無駄にしないよう検討を重ねていく」と応えた。「署名は この日、小林一彦町長にも提出した。

有志は9月中旬から、町内の家を回ったり、県外に住む卒業生に声を掛けるなどして署名を集めた。まだ回収できていない分もあり、数はさらに増える見込みだという。

図３　信濃毎日新聞の記事

（２）展開で使う記事

学習問題が設定された後，自分が調べていきたい富士見町が抱えている問題を見つけていく活動となる。南中学校の跡地利用を学習する中で，追究をさらに深めていきたい課題がはっきりしている生徒もいるが，新たな課題へと関心を向けている生徒もいる。

そこで，富士見町の第４次総合計画に関連させたいくつかの新聞記事(**図４**など)を冊子にし，資料として提示する。そのことによって，どのような課題にしていこうか迷っている生徒にとっては，調査への見通しをもつよい資料となると考えられる。また，高齢化などに関心を持っている生徒には，福祉施設ではなく，休耕田という新たな視点が加わることにより，より調査への意欲が増すのではないかと考える。

このように新聞記事を活用することで，今後の調査の見通しをもつ一つの大きな手立てとなると考えた。

信濃毎日新聞　2010年（平成22年）4月17日（土曜日）

「富士見パノラマリゾート」への10億支援問題

「議会だより」で10議員の意見紹介

富士見町議会は町内に全戸配布した「議会だより」臨時号で、3月の臨時会で賛成多数で可決した同町のスキー場「富士見パノラマリゾート」支援のための費用10億円を盛った補正予算について、議長を除く全議員10人の賛成、反対意見を紹介した。個々の考え方や審議の経過を知り、町政の重要課題について町民に理解を深めてもらう狙いだ。同スキー場は町開発公社が運営。ゴンドラリフト増設などの設備投資に伴う借入金15億円余について、町が公社に10億円を貸し付けて大幅に減らした。臨時号では、今後10年間で約1億5千万円の金利が節減できるなどとする町の提案理由のほか、議長を除く全議員による特別委員会で補正予算を可決した経過を掲載。賛成8人、反対2人の意見も載せた。

賛成者は「借入金の早期返済がパノラマ再生の緊急の課題」「町の信用という点からも借金は返済すべき。今ならば財政面も何とかなる」などと説明。反対者は「町民の中には、出資者である金融機関の責任追及を求める声があ

富士見パノラマリゾート支援をめぐる議員の賛否などを掲載した「議会だより」臨時号

る」などとしている。

町議会事務局によると、議会だよりの臨時号発行は珍しい。特別委委員長の五味滋議員68は「パノラマ問題は全町民にとって重要な問題なので、ぜひ読んで理解してもらいたい。議員の考え方を知れば、来春の町議選に向けて判断材料にもなると思う」と話している。

図４　信濃毎日新聞の記事

８　本時案

（１）主眼

旧南中学校の活用案を考えた中での課題を振り返る場面で，現在の富士見町はどのような問題を抱え，解決のためにどう取り組んでいるのかに着目し，富士見町の第４次総合計画を見たり，富士見町についての新聞記事を読んだりすることを通して，今後の調査事項を見つけ，調査内容に見通しをもつことができる。

（２）本時の位置　　全１８時間中　第１時

次時：調査内容をもとにグループ分けを行い，分担等を決める。

（３）指導上の留意点

旧南中学校の活用案を考えてきたことを想起させるために，今までの社会科学習でまとめてきたものを掲示する。

（４）展開

段階	学習活動	予想される生徒の反応	○指導□評価	時間	備考
導入	１新聞記事を読んで，学習問題を設定する。	ア　大人も一つの案ではできないと考えたんだ。 イ　それぞれの案にメリットと課題があったからだな。 ウ　どこの案にも維持費の問題があった。 エ　福祉施設は建てられない。 オ　町は課題を抱えながら取り組んでいるんだな。 カ　農業はどうなっているんだろう。 キ　井戸尻はこれからどうしていくんだろう。	○南中学校の活用案について考えてきたことを振り返る。 ○新聞記事を配布し，感想を聞きながら，クラスで考えた時のように，複合案が提案されてきたことを確認する。 ○なぜ，複合案となるのか問いながら，どんな課題やメリットがあったか問う。 ○財政面や高齢化に触れながら，南中学校の跡地利用を考える中で，富士見町の実情について学習してきたことを確認する。 ○南中学校の跡地利用を考えた中でも様々な課題が出てきたが，その他にも，富士見町にはどのような課題がありそうか問う。	10	ファイル
	学習問題　　富士見町はどんな課題を抱え，取り組んでいるのだろう。				
／展開	２富士見町の課題を資料を使って見つけていく。	ク　景観づくり（目標１） ケ　農業の支援（目標２） コ　パノラマスキー場の活性化支援（目標２） サ　南アルプス山麓自然遺産登録（目標２） シ　高齢者福祉（目標３） ス　埋蔵文化財の保護（目標４）	○調査からまとめて，自分の考えをつくることを伝える。 ○第４次総合計画の資料を配布し，今後の町づくりで考えられていることを確認する。 ○課題があるからそのような政策をとる必要があることを確認する。	10	富士見町第４次総合計画
	３自分が知りたい課題について，新聞記事をもとに調査内容を考える。	セ　農業は休耕田が増えてきているんだ。詳しく知りたいな。 ソ　パノラマスキー場に 10 億円以上も補助をしているんだ。どうしてだろう。 タ　富士見町の特産品って何だろう。 チ　井戸尻考古館は利用する人を増やすためにどんな取り組みをしているんだろう。	○記事を配布し，調査内容を見つけるよう促す。 今後の調査事項を見つけ，調査内容に見通しをもつことができる。（学習カード）【A①】 ○調査内容が決まらない生徒には，新聞記事を使いながら，着目すべき内容について問いを発し，興味・関心を高めていく。	20	新聞記事をまとめた冊子 学習カード
	４調査したいことを発表する	ツ　パノラマスキー場への融資について，詳しく調べていきたい。開発公社の人に聞いたり，役場に調査しに行ったりする。 テ　高齢化と休耕田は関係している。これからの活用方法も考えていきたい。 ト　特産品を生かすことはこれからの時代に大切。どんなものがあって，どうやって販売したり，よさを知ったりしてもらえるか考えていきたい。 ナ　井戸尻考古館についてもっと調べて，南中への移転も含めて考えていきたい。	○自分と同じ内容について調査を考えている生徒には，調査方法など，メモをとるように声掛けをする。 ○なぜ，調査しようと思ったのか，参考にした新聞記事を示してから，発表するように話す。 ○調査内容が決まらなかった生徒には，友達の発表を参考に考えるよう伝える。	5	
／終末	５感想を記入する。	ニ　町には課題がたくさんありそうだ。しっかりと調べて考えていきたい。	○これからの予定について確認する。	5	学習カード

実証の観点

・導入や展開の場面で新聞記事を資料として扱ったことは，生徒の追究意欲を高め，問題の見通しをもたせる上で有効であったか。

９　授業の実際と考察

（１）社会科授業からの関心を継続して，新聞記事から意欲的に課題設定ができたＳ生

Ｓ生は社会科授業「私たちの南中学校」において，旧南中校舎を残す案として，井戸尻考古館を移動する案をもっていた。本時の授業でもその意欲を継続しており，井戸尻考古館関係の記事にすぐに着目でき，「多くの記事があったり，記事内に縄文時代中期を代表する遺跡と書いてあったりするので，井戸尻遺跡は有名。上手に移転を進めれば観光面でもプラスになるのではないかと思うので，私は井戸尻遺跡の移転について引き続き調べてみたい。」と課題設定ができた。

図５　新聞記事を読むＳ生

このことは，総合的な学習の時間の導入において，社会科の授業での終末と連動させたことで意欲的に課題設定ができた姿である。また，生徒が着目する新聞記事が複数あることや，新聞記事自体が教師でない記者による解説がきちんとなされている文章であることによって，生徒がより確かに自分の考えの根拠とすることができることが伺えた。

（２）文章量の多さにより，課題設定ができなかったＹ生

Ｙ生は，社会科への関心が高く，また，意欲的に調査を進めていくことのできる生徒である。本時でも意欲的に新聞記事を読み進めていた。しかし，設定時間 20 分の中でＹ生が読もうとしていた記事は９つほどあり，中学３年生とはいえ，大変厳しい読み取りとなった。

図６　教師と記事を読むＹ生

このことは，新聞記事をそのまま示し，より現実感をだしたい思いが教師側にあっても，授業時間設定等により，工夫が必要となった姿である。教師は，新聞記事集のそれぞれのページに見出しはつけてあったが，さらに要約をつけるなどの工夫で，生徒が取捨選択しやすくする工夫が必要であることがわかった。

Ⅴ　研究のまとめ

○　新聞記事は，我々が教材化したいデータがすぐに入手できる資料である。今回は，データベースが利用できたので，大変ありがたかった。

○　目的意識，課題意識をもたせたうえで新聞を読ませることができれば生徒は意欲的に内容を読み取れる。しかし，分量に気をつけたり見出しを工夫したりしないと，中学３年生とはいえ，多くの記事にあたることは時間的に難しい面もある。

Ⅵ　残された課題

○　指定後は多くの新聞を手にする機会が減ることが課題。今回の成果をもとに，校長先生や事務の先生に働きかけていきたい。

○　２年間の研究指定をいただき，また，長野県 NIE 推進協議会の皆様には，生徒のみならず教師も多くの時間を割いてご指導いただき，本校職員が NIE について多くを学ぶ機会となりました。感謝申し上げます。学んだことを本校から外へ発信していくことが何よりの恩返しと思っております。多くの機会で広めていきたいと思います。